

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 28 日現在

機関番号：34315

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20730435

研究課題名(和文) 青年後期から成人初期にかけてのアイデンティティの揺らぎと両親間不和に関する研究

研究課題名(英文) Identity fluctuation and interparental discord in late adolescence and early adulthood

研究代表者

宇都宮 博(UTSUNOMIYA HIROSHI)

立命館大学・文学部・准教授

研究者番号：10320152

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・教育心理学

キーワード：両親間不和・アイデンティティ・青年後期・成人初期

1. 研究計画の概要

青年後期から成人初期にかけてのアイデンティティ発達の文脈として、源家族との関係性に焦点を当てる。若年成人の親への依存や巣立ちをめぐる問題は、晩婚化や少子化と相まって、今や大きな社会的関心事となっている。両親がいる場合、彼らの潜在的・顕在的な葛藤は、被養育の立場でなくなった成人期においても、アイデンティティの形成に重大な影響を及ぼす可能性があると考えられる。

そこで本研究では、配偶者との不和における両親の子どもへの期待や、父母双方の心理的不適応が及ぼす影響について明らかにする。研究期間の4年間を通して、質問紙調査による計量的分析と、半構造化面接による質的分析を実施し、様々な角度から若年成人のアイデンティティと両親間不和の関係を明らかにしていく。

2. 研究の進捗状況

これまでの研究期間において、調査の実施ならびに分析が行われたのは、以下の通りである。

対象者は、いずれも両親をもつ若年成人子(20代・30代)である。実施手続きは、すべてオンライン調査によって行われた。両親間不和の指標としては、全調査を通じて、両親間葛藤の生じやすさと、子どもがその葛藤に巻き込まれている度合いについての認知に着目した。なお、計量的分析による検討は、これらの調査をもって終了予定である。

(1)未婚者のアイデンティティ発達ならびに結婚に関する認知や自己の将来展望と、両親間不和との関連について検討

した(1年目)。

(2)子どものいない有配偶者のアイデンティティと子どもをもつことをめぐる意識や主観的幸福感との関連について、両親間不和による影響に焦点を当て検討した(2年目)。

(3)未就学児をもつ有配偶者における、親役割への適応と両親間不和によるサポート力の低下について、アイデンティティ発達の観点から検討した(3年目)。

両親間不和により、源家族からの心理的な巣立ちに困難さを抱えている者が少なからずいることがうかがわれた。すなわち、成人期への移行により、両親間不和による相対的な影響力は弱まるものの、依然として両親の関係性の脆弱さによって、アイデンティティが不安定になっている場合があると推察される。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

(理由)

本研究で計画された多数サンプルを用いた個々の課題に対しては、実施ならびに統計的解析と考察を概ね終えている。一方で、3年目の終盤から予定されていた質的分析については、現在対象者の選定段階にある。

4. 今後の研究の推進方策

(1)最終年度では、成人子のアイデンティティ様態と両親間不和をめぐる意識について、質的分析によって検討する予定である。調査は、20代および30代の成人子に対して、半構造化インタビューを実施する計画である。

(2)全研究期間で取り組まれたすべての調査から得られた知見をもとに、総合的に検討していく。そのことを通して、青年後期から成

人初期にかけてのアイデンティティ発達における源家族、とりわけ両親間の関係性のもつ意味について考察し、結論と今後に向けた展望を示していきたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

Utsunomiya, H. (印刷中). Parents' Marital Quality and Identity Formation among Japanese Late Adolescents. *Social Behavior and Personality: An International Journal*. (査読有)

春日秀朗・宇都宮博 (2011). 親からの期待が大学生の自尊感情に与える影響 - 子どもの期待に対する反応様式に注目して - . 立命館人間科学研究, 22, 45-55. (査読有)

宇都宮博 (2008). 中高年女性の結婚生活の質と抑うつ - 社会的活動, サポート・ネットワークとの関連から - . 立命館人間科学研究, 17, 25-33. (査読有)

[学会発表](計7件)

Utsunomiya, H. (2010, May16). Interparental conflict and marital commitment of parents :Effects on adult children s desire to marry. *Poster presented at the 4th International Self Determination Theory Conference*, Ghent, Belgium.

Utsunomiya, H. (2009, July19). Adolescent perceptions of parental marital quality and identity development: The mediating role of family functioning. *Poster presented at the 14th Biennial Meeting of the International Society for the Study of Individual Differences*, Evanston, U.S.A.

Utsunomiya, H. (2008, May10). Identity formation and interparental conflict among Japanese late adolescents. *Poster presented at the the XIth European Association for Research on Adolescence conference*, Torino, Italy

[図書](計5件)

宇都宮博 (2011). 夫婦関係のとらえなおし 大川一郎・土田宣明・宇都宮博・奥村由美子・日下菜穂子(編) エピソードでつかむ老年心理学. ミネルヴァ書房 pp.104-107. (ほか7件)

宇都宮博 (2010). 夫婦関係の発達・変容

- 結婚生活の継続と配偶者との関係性の発達 - 岡本祐子(編) 成人発達臨床心理学ハンドブック - 個と関係性からライフサイクルを見る - ナカニシヤ出版. pp.187-195. (ほか1件)

宇都宮博 (2010). 両親間不和と子どもの役割 - 青年期の発達への影響 - 柏木恵子(編) よくわかる家族心理学. ミネルヴァ書房 pp.118-119. (ほか2件)